

## 畜 産

厳冬期には、畜舎巡回を頻繁に行い、水道管の凍結防止や畜舎等の積雪被害防止に万全を期す。また、飼料給与にあたっては、気温の低下により熱放散量が増加するため、家畜の栄養状態を観察しながら飼料給与量を増す。

### 1 畜舎等の雪害防止対策及び家畜の飼養管理

#### (1) 凍結及び積雪被害防止

水道管の凍結等により飲み水が制限されると、採食量の低下や、その後の多量な飲水による下痢や子牛の水中毒の発生が懸念される。このため、水回りの点検を頻繁に行い、水道管等の凍結防止に努める。なお、ウォーターカップ周囲の清掃にも留意し、清潔な飲み水を供給する。

畜舎軒下周辺においては、作業安全に配慮しながら適宜除雪作業を実施し、積雪による被害防止に努める。ハウス式の畜舎や堆肥化处理施設等は十分に注意する。

#### (2) 畜舎内の換気と採光

寒冷環境下では畜舎内を保温するあまり密閉しがちになり、畜舎内の湿度やアンモニアガス等の有害ガス濃度が高まりやすくなる。家畜の健康を害さないよう、天候に応じ、できるだけ窓を開けて畜舎の換気を十分行い、採光にも配慮する。また、牛床や豚房の汚れがひどく濡れた状態だと、家畜が汚れるばかりでなく、体温が奪われて下痢や肺炎等の原因にもなるので、排せつ物搬出の頻度を増やしたり、敷料を多めに投入して床の乾燥に努める。

#### (3) 家畜の飼養管理

気温の低下に伴い家畜の熱放散量の増加や飼料の消化率の低下が起こり、養分要求量が満たされなくなる。これを回避するため、家畜の状態を観察しながら給与量を増す（養分摂取量を確保する）。また、凍結したサイレージの牛への給与は、下痢等の発生原因にもなるので、給与時に凍結の有無を十分点検するとともに、サイレージ取り出し後はシート等で覆い、凍結防止に努める。

冬期間は雪囲い等により畜舎内が暗く運動量も少なくなることから、天候の穏やかな日はパドック等を活用し日光浴と運動に努め、牛の繁殖成績向上を図る。

### 2 飼料作物の栽培管理

#### (1) 年間の作業計画作成

飼料作物の栽培と収穫・調製作業の計画をこの時期に策定する。草種ごとのほ場と面積を考慮し、種子の手配は余裕を持って行う。飼料用稲の推進は耕畜連携の取組が重要となるので、ほ場の調整や実需者との流通方法について関係者間で十分に打合せを行う。

#### (2) 草地管理

採草利用を目的とする牧草の初期生育を確保するため、融雪後早めに追肥を行う。放牧利用草地では、スプリングフラッシュと転牧計画を十分考慮した施肥設計にする。

#### (3) 稲発酵粗飼料（WCS）等の農薬使用について

今年の稲発酵粗飼料（WCS）作付けにあたっては、「稲発酵粗飼料生産・給与マニュアル」を参考に適正な農薬の選定と使用について留意する。